

定員：15名

まちづくり人材育成プログラム

場づくりLabo in 与謝野町

10/5-6
1泊2日

～地縁コミュニティと新しいコミュニティをつなぐ場のデザイン～



与謝野町

4年目を迎える「まちづくり人材育成プログラムー場づくりLaboー」は、自治体職員や地域づくりにかかわる実践者を対象に、住民主体のまちづくりの現場を訪問し、「地域づくり」を問い直す合宿型のプログラムです。

今回のフィールドは、京都府北部与謝野町の大江山のふもと、温江（あつえ）にある人気の宿泊施設「かや山の家」。温江地区の「地縁コミュニティ」と移住者の「新しいコミュニティ」をつなぐ拠点にもなっています。

本プログラムでは、「かや山の家」が「人と人をつなぐためにどのような役割を果たしてきたのか?」、「地域の価値を誰がどのようにしているのか?」を問いに、地域住民への聞き取り、参加者同士のディスカッション、場づくりのデザイン演習を通じて、場づくりと地域づくりとの関係性を確認し、自身の組織や地域で活かすプランニングを行います。

日程

● 2024/ **10/5** (土)11:30～**10/6** (日) 15:30 現地集合・現地解散

1泊2日

場所

- 開催場所：京都府与謝郡与謝野町 温江地区
- 会場・宿泊：「かや山の家」与謝野町温江1401
(最寄駅 京都丹後鉄道「与謝野駅」から車で約20分) ※送迎が必要な方は、事前申込

対象

- 自治体、地域運営組織等でまちづくりに取り組む実務者の方で、聞き取りやグループワークへの意欲を持つ方 (先着順 15名)

参加費

- プログラム参加費：無料
- 宿泊費・食費：15,000円(税込) 1泊4食
宿泊施設に、当日、直接支払い(支払いは現金・クレジットカード・電子マネーなど)

当日の会場までの交通費、食事の際の飲料代は、別途、かかります。

「かや山の家」は、大江山連峰を背景に棚田が広がる温江地区にあり、1978年に京都府の施設として開設。2009年に町が譲り受け、温江地区が運営を続けてきましたが、施設の老朽化に直面。「施設を継続させたい」と願う5人ほどが、2017年に、(株)かや山の家運営委員会を立ち上げて再スタート。2021年には宿泊施設としても全面的にリノベーションを行い、地元の食材やクラフトビールを味わえる食堂としても人気です。

また、丹後地方のアーティストによる展示会やイベントの開催、与謝野町役場の事業「産後リフレッシュ事業」への企画協力、山の家に隣接するツリーキャンプ場の開設支援など、宿泊施設と食堂を活用したウェルネスや事業や「楽しいこと」をしたい人たちのネットワークの中核（ハブ）ともなっています。

こんなお悩みをお持ちの方に

- ・自治会などのコミュニティと移住者がつくるコミュニティとの良い関係のありかたを知りたい
- ・「関係人口」という考え方の地域づくりへの活かし方を学びたい
- ・地域住民との対話の手法と心構えのヒントを得たい
- ・大学の研究者と一緒に、わがまちのプランをブラッシュアップしたい

内容

※内容は変更する場合があります。ご了承ください。

10/5 (土)	11:30~ 18:00	<ul style="list-style-type: none"> ・11時30分「かや山の家」集合 ランチセッション（プログラムのねらいの説明） 1日目テーマ：「地縁コミュニティ」と「かや山の家」 セッション1 地域住民へのインタビュー セッション2 青木博さん（かや山の家）とのQ&A セッション3 参加者同士の振り返り
	18:00~	夕食（地元の食材を使った料理） 宿泊（かや山の家） 相部屋（2~3人）になります
10/6 (日)	9:00~ 15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食 2日目テーマ 「新しいコミュニティ」と「かや山の家」 セッション4 移住者とのトーク 江種里榮子さん（エグcafé）、ツリーキャンプ場の運営者ほか、調整中 ・昼食 ・セッション5 場づくりデザイン演習（自身の組織や地域で活かすプランニング） モデレーターによるフィードバック ・15時終了 15時30分解散

温江地区のスピーカー



青木 博さん
支配人 兼 料理人
(株)かや山の家運営委員会
代表取締役



江種 里榮子さん
(エグcafé)

京都府立大学のモデレーター

上杉 和央
文学部准教授
KIRP 副センター長

川勝 健志
公共政策学部 教授

鈴木 暁子
KIRP コーディネーター

問い合わせ・詳細

京都府立大学 京都地域未来創造センター
(KIRP)

kirpinfo@kpu.ac.jp <https://kirp.kpu.ac.jp/>

